

さくら第466号

平成30年10月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7:Tel.51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

とまか
 具体的に動いて
 具体的に動けば
 具体的な答えが
 出るから
 みつと

『算額とは』

日本への数学の伝来は大きく分けると3回あり、最初は中国から朝鮮を伝わり飛鳥時代から奈良時代に計算に使う「算木・さんぎ」と「かけ算九九」です。

2回目は、室町時代に中国から「そろばん」と「割声・わりごえ」が伝来しました。割声とは、かけ算九九を使わずに、答えと余りが続けて分かる割声という九九を暗記しました。

3回目は、明治の初めに外国から「西洋数学」が入ってきて、今にいたっています。

日本独自で発展したものに「和算・わさん」がありましたが、明治になって「洋算」が発達するとともに使われなくなりました。

この和算の進歩と発展に大きな役割をしたのが「算額・さんがく」です。算額とは、神社やお寺に奉納した数学の絵馬や額のことで江戸時代、数学の問題が解けたことを人々は神や仏に感謝して奉納しました。

問題だけを絵馬に書いて答えなしで奉納し、その問題を見て答えが解った人は算額にして奉納します。するとほかの人がもっと難しい問題を出すなどしてレベルアップします。

全国には1000面近くが残っているといい、全体的には幾何学の問題が多いです。

ところで、越前市(旧武生市)国兼町の大塩八幡宮に掲げてある算額にはきれいな色の絵が残っており全国で最も古い額です。蜂谷氏頼哉が奉納したとあります。

9月17日(月・祝)の午前11時ごろに、大塩

八幡宮を参拝しました。民家を抜けると正面に見える山の下に赤い鳥居があり、そこから200mほど進むと更に大きな赤鳥居があり、長い石段が真っすぐに続きます。手元の掲示板には国指定重要文化財大塩八幡宮拜殿と大きく書かれ昭和53年5月31日(文部省告示第122号)指定とあります。鶴亀松竹の算額一面は元禄14年・1701年に奉納され、昭和57年4月23日に県指定の文化財となりました。ほかに桃山～江戸時代の鞍(くら)、仏像、梵鐘、絵馬の由来も書いてあります。

石段は172段あり、更に31段上った所に拜殿があり工事中の大工さんが3人。聞けば9月24日の祭礼時に餅まき用の足場を作っているとのこと。そこからもう13段上ると視野が広がり「木曾義仲本陣跡伝承の地」と書かれた石碑があり、脇には陸(おか)堀りという幅と深さ2mほど掘った跡があります。戦に使うのです。

しばらく見たあと先ほどの拜殿に戻り、絵馬の話をする大工さんは知らないと言います。すると、ちょうど下から上って来た年配者を指し、区長さんだから知っているだろうと紹介されました。

区長さんが言われるには、木曾義仲本陣を記念して、24日に長野県の木曾町から義仲の子孫と町民50人余りがこの神社で参拝したあと餅まきをするとのことでした。絵馬は脇の神輿倉庫に置いてあるが施錠してあり、神主がいないので見られないと言われるので、今戻るときに倉庫を見たら鍵が外してあったと話せば、それなら見てくださいと案内されました。

大小2基の神輿の脇のガラス戸を開けると目的の絵馬に出会い、急いで数枚の写真を撮り、お礼を言って帰りました。

鍵が開けられていたのは工事中だからだと思いますが運よく区長さんと出会えた奇跡に感謝。見学したいという思いが強ければ強いほど願いが通ずる。偶然といえばそうかも知れませがふと、坂村真民の「念ずれば花開く」の詩を思い出しました。